

会 議 記 録

会 議 名 称	第 4 回杉並区社会教育委員の会議
日 時	令和 6 年 3 月 19 日 (火) 午前 10 時 02 分～午後 0 時 07 分
場 所	中棟 4 階 第 1 委員会室
出 席 者	委員 諸橋、宮内、檜枝、青木、天野、荻上、内山、笹井 区側 生涯学習担当部長、生涯学習推進課長、管理係長、庶務課計画担当係長、社会教育推進担当係長（社会教育主事）、社会教育センター社会教育推進担当係長（社会教育主事）、管理係主査
配 付 資 料	<p><配付資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第 3 回社会教育委員の会議記録 2 教育ビジョン 2022 推進計画（令和 6 年～令和 8 年度）改定案 3 社会教育センター事業について 4 前回までの発言整理 5 今後の会議予定について（案） <p><参考資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 科学展示「動かすチカラー鉄道と科学ー」チラシ 2 企画展「おいしい暮らし」チラシ 3 杉並区立郷土博物館だより『炉辺閑話』No.70 4 博物館カレンダー「博カレ」令和 6 年 3 月号 5 IMAGINUS 広報紙 イマジナスニュース Vol.04 6 「好きが見つかる！恐竜化石ラボ」チラシ 7 「親子でサイエンス」チラシ 8 青少年委員制度発足 70 周年記念誌 9 家庭教育講座「子どもの幸せ 大人ができることってなに？」チラシ 10 大人と子ども、地域と学校をつなげる、地域発＜教育情報誌＞なみすく 2024 年春号 11 杉並区中学校対抗駅伝大会 2023 結果報告 12 ユニバーサルタイム チラシ 13 とうきょうの地域教育～豊かな出会いと学びを～No.151
会 議 次 第	<p>I 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育ビジョン 2022 推進計画改定案について 2 社会教育センター事業について <p>II 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 今期の検討課題「社会教育活動への支援のあり方について」について 2 今後の予定について

Ⅲ その他

(意見要旨)

- 生涯学習担当部長 新年度の予算が成立して、新年度から教育ビジョン2022推進計画も新たにスタートします。社会教育委員の会議では、任期2年の間に社会教育活動の支援の在り方についてご検討いただきますが、本日は皆様の社会教育との出会いや体験談をご披露いただきながら議論すると承知しております。忌憚なく、いろいろなお話を承りながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。
- 議長 ありがとうございます。議事に入ります前に、資料の確認をお願いします。
- 社会教育推進担当係長 配布資料の説明
- 議長 1番目は報告事項で、教育ビジョン2022推進計画改定案についてお願いします。
- 庶務課計画担当係長 教育ビジョン2022推進計画改定案について説明
- 議長 報告事項の2番目、社会教育センター事業についてお願いします。
- 社会教育センター社会教育推進担当係長 社会教育センター事業の報告
- 議長 協議事項に移ります。社会教育活動への支援の在り方について、前回ブレイクストーミングでご意見を出していただいた中から、検討する上でのテーマをピックアップしています。それが「誰もが学びの主体は自分であるということに気付くにはどうしたらいいのか」です。

要するに「学ぼう」と一人ひとりに思っていたかないと、なかなか学びは実現しないということです。当たり前のことですが、ボランティアズムというか主体性というか自発性というか、そういうものが大事になると思います。

第三者が外在的に価値規範を決めて学んでもらう、子どもたちに学ばせるというのが教育の論理ですが、社会教育や生涯学習は自分で学ぶのが前提です。これをふまえて行政や専門職員はどういうふうにサポートができるのかとなるので、ご本人に意欲を持ってもらうということがとても大事です。こういうところを刺激すると人間は変わるというテーマ設定にしました。
- 委員 私の場合、一番は自分が学びのつくり手になるという経験だったと思っています。自分で考えたいことを人と共有して形にすることが、学びの主体は自分であるということや、欲しい学びは自分でつくれるという実感につながるのではないかと思います。一方的に参加するだけだと、学びの固定概念は変わらないですが、今まで受けてきた教育と違う教育に触れたり、自分がつくり手にまわる経験があると、自分で学ぶって面白いという気付きにつながります。
- 委員 講座を受けているだけではなかなか主体的な学びにならず、役割があつて手応えを感じて、どんどん前に進むことができます。
- 委員 科学が進み、子どもは全ての力を持って生まれてくるのが分かってきています。自分が知りたいと思うことを知り、関心のあることに欲求を持って生きています。子どもたちが「学ぶって面白い」「知りたいことを知ってこんなに面白い」と思えたら、誰が何を言わなくても勝手に学んでいく社会になるのではないかと思います。
- 委員 やる気がない学生をやる気が出るようにするには、自分でやりたいことができるという環境をどうつくるかしかないと考えます。一人ひとりのやる気がどこにあるのかを我々は見抜いていかなければと思います。

社会教育、生涯学習で考えていくと、みんながSNSに時間を使って、人とのコ

コミュニケーションが失われ、スマホの先の人とつながっていても傍にいる人とはつながれない。社会がテクノロジーによって変わってきていることも考えた方がいいのではないのでしょうか。

- 委員 PTA活動の中で、自分ももっと社会をよりよくしていけると気づかされたことがあったので、社会教育に触れていない人がいないような社会をつくるのが社会教育かなと思っています。

子どもたちにとって、たくさんの大人との出会いが必要ですが、足りていないことを感じています。大人との関わり方のチャンスをもっと作るようなシステムづくりをしていくと、結果的にその子たちは育っていくし、そしてそこに関わる大人も、社会教育という実践に触れるということができるようではないのでしょうか。

- 委員 今の意見に共感してですが、様々な学びの主体者がいることや、彼らがすごく生き生きしている現場に触れられると、「自分もそういうふうやっていいのだ」と思える体験になるのかなと思いました。

- 委員 子どもの頃は学ぶ場所は学校で、学校以外は遊びだと思込んでいました。学校はある意味やらねばならないことですが、遊びの延長線で自分から“こうしたらとかどうかな？”と思うことなどが主体的な学びだったのかなと思います。

勉強と言わない時間の中で、好奇心でやっている人から知識をもらうことがあって、結果的に学びの循環になっているのが社会教育だと思っています。私にもそれがあって、子どもから学ぶこともあります。

- 委員 子どものサッカーチームの世話役は、仕事でもなく、自分なりの役割と関わりが生まれた中で、ある意味社会教育に関わるきっかけだったのかもしれないと思いました。社会教育という意識がないところも考えていい論点かもしれないと思いました。

それから、ある世代以上の方は特にそうだと思うのですが、学びや教育にも目的や意義を少なからず意識してしまい、何かのためというのが無いと落ち着かない。何かをやっている、遊びであって学びではないというように、どこか線引きをしてしまうことが多いのではないかと思います。言葉の難しさみたいなところがあると思います。

- 委員 緒方貞子さんの「自分だけの幸せは本当に幸せなのか。それを常に問い続ける」という言葉や、「他愛（たあい）」と書く「たわいもないことが大事」の「たわい」は、他を愛せるというところからきています。私の学びや活動の支えはそこにあります。

- 委員 自分がやりたいことをやりながら、社会の中での役割を両立して初めて社会の中で生きるということにつながると思います。子どもが幸せに生きられるように選択肢をたくさん見せて、社会の中の役割の一つとして、あなたの生きる道の糧になるというのを示すのが大人の役割と思っています

- 議長 1996年のユネスコ報告書の前書きに「学習：秘められた宝」、つまり“Learning:the treasure within” 労働の中に宝物があるという寓話が掲載されていますが、学びもそうで、宝物は学習するその中にこそあるということです。宝物だから、いつかそれは自分の役に立つという話があります。

学びの成果云々は、目的化、課題化とセットされるが、プロセスそのものを大事にする学びのプロセスには、共感や情緒的なやりとりなどのようなものも含まれます。学ぶことイコール他者と一緒に生きることを意味すると思います。仲間と一緒に生きるということイコール学ぶということです。

社会教育で出会う人はいろんな世界を持っていて、全然バックボーンが違うのに面白い人ばかりです。人が持っている世界と自分が持っている世界の違いを楽しめる感覚がモチベーションにつながっているからなのでしょう。だから私は、いろいろな経験をする事でいろいろな世界が見えてきて、見えてくる面白さに気がつくことがすごく大事で、旅行、芸術、スポーツのイベント、いろいろなことが経験につながってくると思います。

○委員 かわいい子には旅をじゃないですけど、地域から一旦外に出て、いろいろなことをいっぱい吸収してきてほしいとよく思います。

○委員 違う価値観を持った人や違う文化圏の人たちの、自分が思いもしなかった経験をする事で、初めて差別がなくなると思っています。自分が決定して物事を学んでいきますが、その先に他の人の幸せを考えられる人になるために、話してみる、感じてみる、一緒に何かしてみるということが大事だと今日実感しました。

○生涯学習担当部長 地域課長をしていた頃、窃盗事件の増加から地域に防犯自主団体がたくさんできました。団体に入って一緒に防犯活動を始めていくと、団体の方たちは防犯診断など専門家のところに学びに行っていたのです。みなさん、自治活動と学びをつなげてすごく勉強されていました。

同じ地域活動でも、学びは、文科省、地域活動や自治活動の支援・後押しでは、内閣府や総務省といったように、国の行政のラインが異なり、区でもその流れの中で担当する所管が異なります。学びと地域活動は表裏一体のもので、行政に身を置くものとしても、縦割りの構造に違和感を感じています。目標や到達点は、基本的に同じなのですから、皆さんと一緒にいい社会をつくっていく、いい学びの場をつくっていくということを大切にして、行政の一体的なサポート体制を創っていくことが大事なのだとつくづく感じております。

○議長 ありがとうございます。そろそろ時間になります。最後にご挨拶をお願いします。

○生涯学習推進課長 令和5年度は今日が最後の社会教育委員の会議ということで、1年間ありがとうございました。学びというのはかなり自由だと思いますし、人間はつながらなくては生きていけないというのが、私がこの間「学びの現場」を見てきて感じているところです。来年度も引き続きよろしく願いいたします。

○議長 本日の会議はこれで終了いたします。